

弔 辞

秦 隆真上人

化縁新つき七十七才を一期として
溘焉として淨刹に往詣し給う。

上人、愛宗護法の念厚く、慈眼庵
及び招善寺住職たること今に及び五
十年、寺門の経営、檀信の教化いた
らざるなし。

又、宗門社会福祉に異常の関心を
示され、学理研鑽と実践に蘊蓄を傾
け内外令名頗る高し、即ち入りては
仏教大学、華頂短大その他において
卓越せる理念により、若き学徒の指
導に当ると共に、出でては社会福祉
施設平安養育院主事、又は院長とし
て経綸を振い、又教誨師、保護司、
調停委員、社会福祉協議会長等、至
らざるなき福祉行政に参画して偉功
あり。

又祖山恢興に力を尽され、文書課
長、社会課長、教学部長等を歴任し
て総本山護持に寄与するところ極め

秦 隆真先生を懷う

仏教社会事業研究所長 恒 川 武 敏

嗚呼、ついに昭和五十年七月六日、七十七才を一期として冥土黄泉の客となられ、今はただその面影を忍ぶより外ないものとなりました。先生は生涯を通じ、社会福祉事業に情熱と精魂をこめて邁進され、自からの人生に悔ない活動をされたことと思います。

先生は若い時から、社会の底辺に生きる人々の味方となり、或は不幸な人のよき杖となり、或は非運の境遇に沈潜する人を善導し、或は自からの苦悩と戦いつつ、自からの信念に生き続けられてこられました。つまり、大正時代のデモクラシー思想に共鳴し、仏教の菩薩道を実践することが真の仏弟子なりとの堅い信念に立つものであります。

戦後における社会福祉事業は個人の救済も肝要であるが、それとともに、地域福祉・社会福祉協議会活動も併せて推進することを痛感され、次第に巾広い識見と深い理解の上に立って活動されるようになった。それがため社会の要請を達観されて、仏教大学に社会福祉学科を創設して、有用な人物の養成に力を注がれ、更に研究部門の充実をはかるため、大学院を設置し、或は仏教社会事業研究所を創設し、自からその所長として活躍されたのであります。

先生は静かにして温かな生活態度で、相手の話をよく聞いて判断される方でした。他人と争

で多し。

今や、上人は仏教大学名誉教授、総本山知恩院顧問会々長、浄土宗調停委員長、浄土宗教誨師会副会長、浄土宗保護師会理事等の枚挙に遑なき各要職にあり、一宗前進上、上人今後の指導に俟つ処、頗る多き折柄、今、突如として遷化にあつ、痛惜の情、言ふところを知らず。

一宗並に総本山は上人生前の勞蹟に応え、宗門最高の教階、正司教、総本山最高処遇着宿の栄位をたむけらる、余栄、誠に燦として、今、靈前に輝く。

冀くは、上人、上品蓮台上、弥々輝きを加え、宗風宣揚、祖山復興、社会浄化の上に豊かなる還相を給わらんことを

昭和五十年七月十八日

浄土宗宗務総長

稻岡 覚順

うことなく、人の心底を透徹する瞳の所有者であり、実に英知にあふれながら、自分の意見を押通すような方ではなかった。

明治時代に仏道修業した人は、一般的に一掃除、二勤行、三学問、四阿呆という厳しい寺院生活されたので、古武士的頑固さがあるのが普通でしたが、先生にはそのような面は少しもなく、自分の苦勞してきたことは、少しも言葉に現さず、相手の立場をよく理解しつつ、柔和にして、しかも蕊のある気品高い行動を取って世を渡られた方でした。

私が京都市北区の福祉事務所長をした時、秦先生が社協会長をされていたので、その人格に接し、全く無欲にして活潑・名譽欲にかられることなく、常に公平にして目的達成に尽力されていたことを思い出すのです。それ故、益々人格が高まり、困難な事態が起きれば必ず秦和尚の出馬を要請するということになったほどでした。また、私が仏教社会事業研究所長を引継いで感ずることは研究所の目的を明確にされ、しかもその進路を誤ることのないよう組織立ててあることです。いかなる事態に対しても決して動搖せず、設備等の不満に対してもお叱りの言葉もなく、黙々として自から与えられた任務に邁進されました。

アア!! この人にしてこのことができたことを切実に感じたのは、その葬儀参列者の盛大さと先生の死顔でした。それは眠るが如く、静かに微笑をたたえる大往生の姿、人生の大事を終えた人の相でした。ただ、先生よ!! 安らかに、永遠におねわり下さいとお祈り申し上げます。